

公開シンポジウム：「ビッグデータの創薬と医薬品適正使用への活用に向けた提言」

主 催：日本学術会議 薬学委員会 医療系薬学分科会および日本薬学会
後 援：日本医療薬学会、日本薬理学会、日本薬剤学会、日本薬物動態学会（予定）
日 時：平成 30 年 11 月 20 日（火）： 9:30-17:00
場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）

開催趣旨：

経緯：日本学術会議 薬学委員会 医療系薬学分科会は、2017 年 9 月に報告「社会に貢献する医療系薬学研究の推進」を発出しました。さらに、2018 年 3 月に日本薬学会第 138 年会（金沢）において、同分科会企画シンポジウムとして、「社会に貢献する医療系薬学研究の推進」を開催し、本報告の普及・啓発を行いました。医療系薬学研究は、薬学教育 6 年制の上に立つ 4 年制博士課程の中核をなす研究領域であり、その活性化は 4 年制博士課程の将来に強い影響力を持っています。医療系薬学研究は、臨床現場の諸問題やニーズに立脚しますが、臨床現場のみならず、大学、企業、研究機関等でも活発に行われており、最終的にその成果は臨床にフィードバックされ、社会に貢献することが求められます。上記年会シンポジウムでは、医療系薬学研究の発表や学術交流の場として重要な機能を持つ、各種学会を代表する方々から、医療系薬学研究推進のために行うべき取り組みや課題、研究活性化のための国等への要望などを講演していただき、医療系薬学研究のさらなる発展のために、「レギュラトリーサイエンス」、「医療経済学」、「ビッグデータを扱う情報科学」等の進展が望まれることが明確になりました。中でも、「ビッグデータ」については社会的な動きが速く、時間を長くかけて議論していたのでは、本テーマについて提言をまとめるタイミングを逸してしまう恐れもある、喫緊の課題と位置づけて、取り組むこととなりました。

開催意義：これらの経緯を踏まえて、「ビッグデータの創薬と医薬品適正使用への活用に向けた提言」を主題に公開シンポジウムを本年秋期に企画しました。公開シンポジウムでは、「ビッグデータ」、「人工知能(AI)」、「創薬」等をキーワードに、加えて、本年 6 月に世界保健機構(WHO)の公式記者会見で公表され意見公募が始まる「国際疾病分類第 11 版(ICD-11)」等もタイムリーな話題として取り入れる予定です。本シンポジウムでは、医療系薬学分野におけるビッグデータの利活用や発展性等について、医療現場での副作用情報収集・解析・予測などに留まらず、グローバルな視点から議論を展開し、“日本のあるべき姿”等について、議論を深めたいと考えています。さらに、その討論内容を踏まえて、当該領域において欧米から遅れをとっている我が国が短期間で諸外国を追い越すための、国として取り組むべきことは何かがあるか、問題提起や関連事項の確認・整理・広がり推進する提言として、まとめたいと考えています。

実行委員長：入江 徹美（日本学術会議薬学委員会医療系薬学分科会連携会員、熊本大学大学院生命科学研究部）

連絡先：

入江 徹美
熊本大学大学院生命科学研究部薬剤情報分析学分野
薬学部附属育薬フロンティアセンター(CCPS)
〒862-0973 熊本市中央区大江本町5-1
☎/FAX: 096-371-4552
E-mail: tirie@gpo.kumamoto-u.ac.jp

次 第 :

- 09:30-09:40 開会の挨拶
奥 直人 (日本薬学会会頭)、望月 眞弓 (日本学術会議第二部会員)
- 09:40-09:45 趣旨説明 入江 徹美 (熊本大学大学院生命科学研究部)
- 09:45-10:05 「ビッグデータの創薬研究への活用:概況」
笠原 忠 (国際医療福祉大学大学院薬学研究科)
- 10:05-10:45 「化学物質毒性ビッグデータベースと、インシリコによる毒性予測」
本間 正充 (国立医薬品食品衛生研究所)
- 10:45-11:25 「ナショナルデータベースの仕組みとビッグデータ活用の実際」
石川ベンジャミン 光一 (国際医療福祉大学大学院医学研究科)
- 11:25-12:50 昼休み
- 12:50-13:30 「ビッグデータとAI創薬への応用:現状と展望」
田中 博 (東京医科歯科大学・東北大学 東北メディカル・メガバンク機構)
- 13:30-14:10 「医療ビッグデータ、特にDPCデータを用いた臨床疫学研究」
康永 秀生 (東京大学大学院医学系研究科)
- 14:10-15:00 「The Value Proposition of ICD-11 and WHO-FIC for Big Data in the Medical World」
Nenad Friedrich Ivan Kostanjsek (Health Data Standards and Informatics Team at the World Health Organization)
- 15:00-15:10 休憩
- 15:10-15:25 「リアルワールドデータの医薬品安全性評価への活用と課題」
宇山 佳明 (医薬品医療機器総合機構 医療情報活用部)
- 15:25-15:40 「創薬等におけるビッグデータ活用のために」
森田 正実 (医薬産業政策研究所 統括研究員 政策担当)
- 15:40-16:10 「ヒトの多様性とAI、ビッグデータ」
谷 伸悦 (内閣府 政策統括官(化学技術・イノベーション担当)付 課題達成担当参事官(人・暮らし担当)付 参事官補佐)
- 16:10-16:55 総合討論
司会進行: 伊藤 美千穂 (京都大学大学院薬学研究科)
- 16:55-17:00 閉会の挨拶
寺崎 哲也 (日本学術会議薬学委員会医療系薬学分科会委員長)